

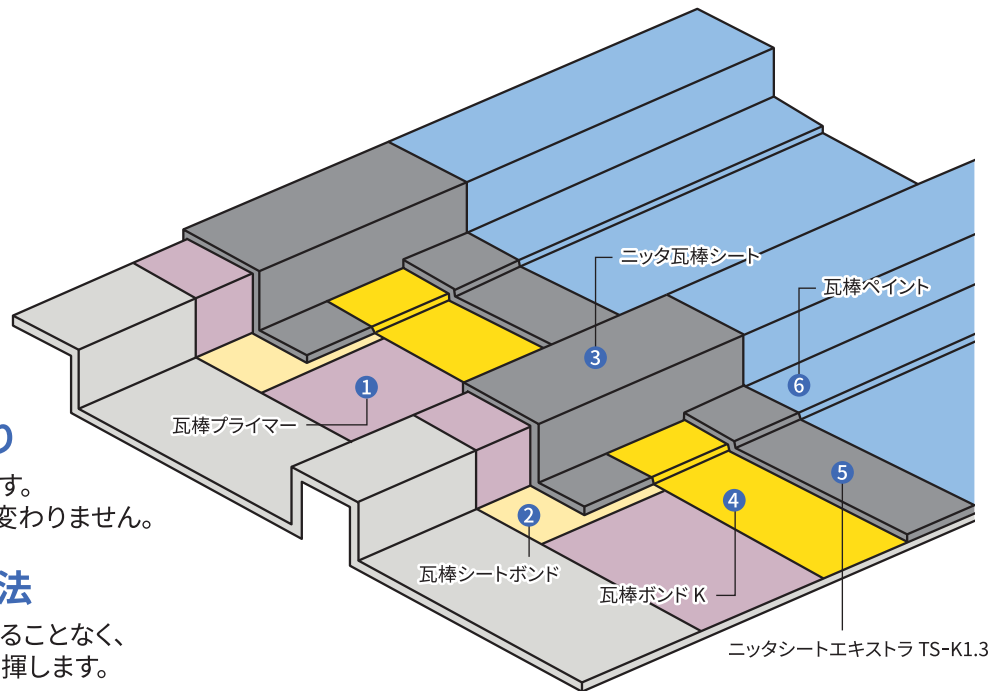
ニッタ瓦棒シート



ニッタ瓦棒シート工法

特長

ニッタ瓦棒シート工法は、粘着層を積層した専用の加硫ゴム系シートとポリオレフィン系樹脂の成型品を組み合わせた、瓦棒葺き金属屋根専用の改修システムです。



1

カラフルな仕上がり

美しくカラフルに仕上がります。
従来の瓦棒ラインの意匠も変わりません。

2

耐久性に優れた工法

酸性雨や塩害の影響を受けることなく、
長期間優れた防水機能を発揮します。

3

軽量・かぶせ工法

荷重は約 2.5 kg/m^2 です。金属改修工法の約 $1/3$ 程度です。
かぶせ工法により廃材削減に結びつきます。

4

短工期・簡単施工

プライマーや接着剤の塗布は下地のみですので、
より早く、より安定した施工が実現できます。

5

居住性が向上

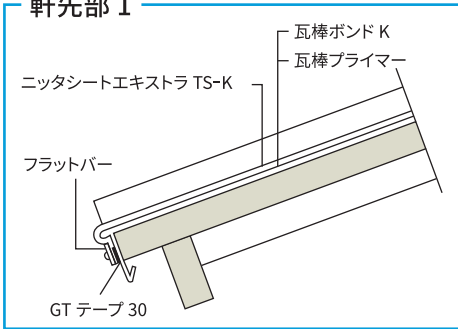
ニッタシートエキストラ TS-K は制振効果に優れ、
雨音の低減効果があります。

仕様

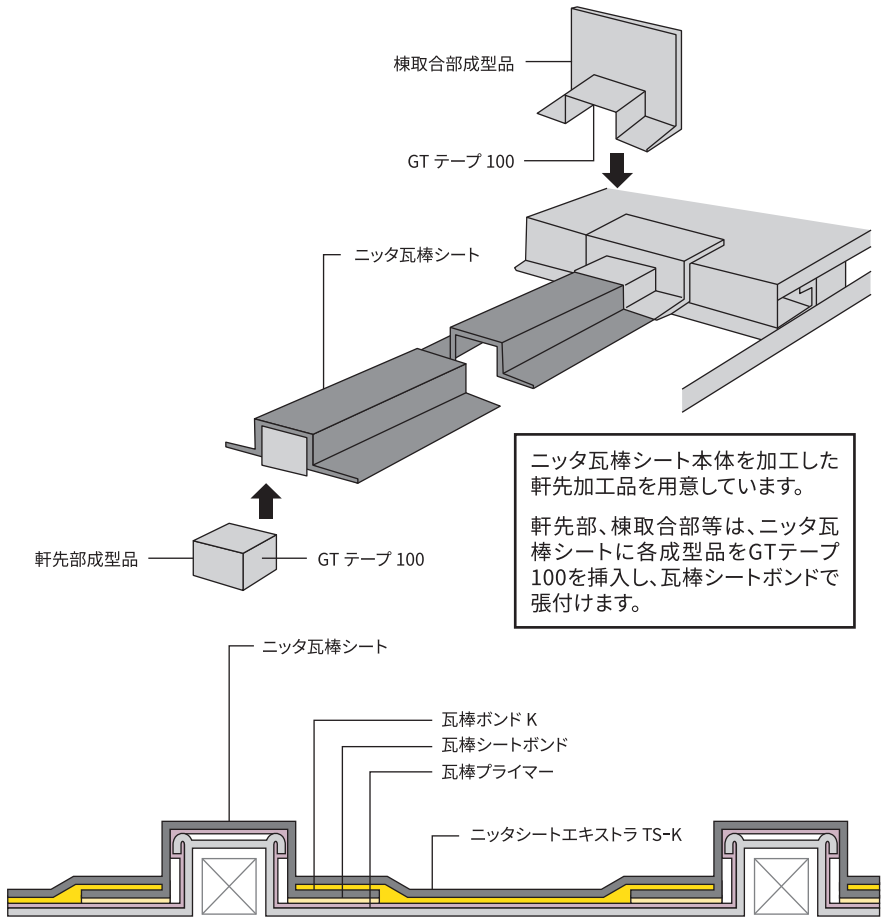
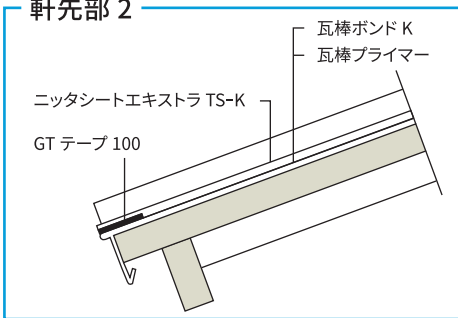
下地	工程	①	②	③	④	⑤	⑥
瓦棒金属屋根		瓦棒プライマー	瓦棒シートボンド	ニッタ瓦棒シート	瓦棒ボンドK	ニッタシートエキストラ TS-K	瓦棒ペイント
標準量 (/m ²)		0.1kg	0.25kg	—	0.25kg	—	0.25~0.35kg

ニッタ瓦棒シート施工例

軒先部 1



軒先部 2



製品紹介

品名	荷姿	材質または主成分	用途
ニッタ瓦棒シート	4m ^l ×15本/箱 ※1	オレフィン系樹脂	オレフィン系成型瓦棒
ニッタシートエキストラ TS-K1.3	1.3mm ^t ×任意幅(最大1,200mm ^w)×20m ^l	EPDM系	粘着層積層シート防水材料
ワ棒プライマー	12kg/角缶	アクリル樹脂系水性エマルジョン	防錆下地処理剤
ワ棒シートボンド	12kg/角缶	クロロプレングム系(溶剤系)	瓦棒用下地接着剤
ワ棒ボンドK	12kg/角缶	クロロプレングム系(溶剤系)	ふき板用下地接着剤
GTテープ100	1.0mm ^t ×100mm ^w ×30m ^l ×4本/箱	ブチルゴム(自然加硫)	ニッタ瓦棒シートジョイント用テープ
カットテープ70B	1.8mm ^t ×70mm ^w ×15m ^l /本	EPDM系	ニッタ瓦棒シートジョイント用増張りテープ
GTテープ30	0.8mm ^t ×30mm ^w ×40m ^l ×5本/箱	ブチルゴム(自然加硫)	シート端末用テープ
ワ棒ペイント	12kg/角缶 ※2	EPDM系(溶剤系)	仕上塗料
軒先部成型品	50個/箱 ※3	オレフィン系樹脂	軒先キャップ
棟取合部成型品	50個/箱 ※3	オレフィン系樹脂	棟取合用カバー

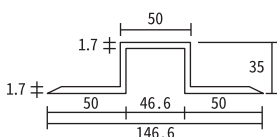
※1 長尺品(30m^l×2本/箱)や任意サイズ(最大30m^l)、軒先加工品もあります。

※2 標準色として、メタリック仕様のシルバー、グレー、グリーン、ブルー、レッドがあります。

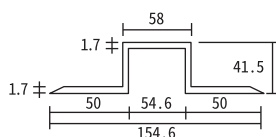
※3 45型と50型のタイプがあります。

●ニッタ瓦棒シート

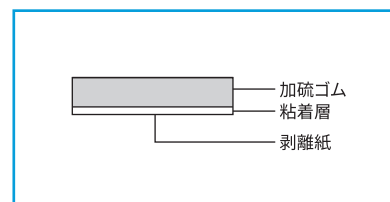
ニッタ瓦棒シート45型



ニッタ瓦棒シート50型



●ニッタシートエキストラ TS-K



施工要領

施工に際してはニッタ瓦棒シート工法標準施工要領書をご参照ください。

1. 瓦棒プライマーの塗布(全面塗布)



2. 瓦棒シートボンドの塗布



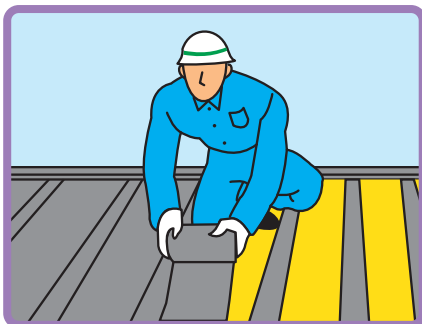
3. ニッタ瓦棒シートの張付け



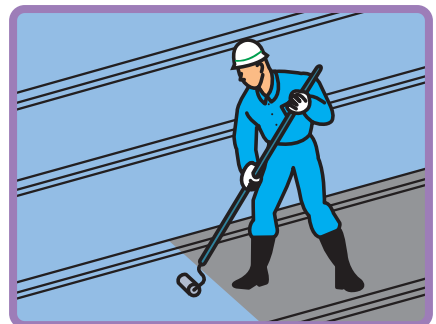
4. 瓦棒ボンド K の塗布



5. ニッタシートエキストラ TS-K の張付け



6. 瓦棒ペイントの塗布

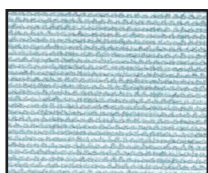


施工上の注意要領

- 下地を確認し、不具合部は板金補強をおこなう等の修正をお願いします。また、錆等は除去してください(3種ケレン)。
- プライマー・ボンドは十分に攪拌し、次工程は指触乾燥後におこなってください。
- ニッタ瓦棒シートの張付けは、軒先部から2m程度はニッタ瓦棒シート側にも瓦棒シートボンドを塗布してください。
- ニッタ瓦棒シートは早めにダンボール箱から出して形状を元に戻してから施工してください。
- ニッタ瓦棒シート・ニッタシートエキストラ TS-K の張付けはハンドローラーを用いて転圧してください。
- ニッタ瓦棒シートの接合部は同じ一直線の位置になるように線をそろえてください。
- 末端は必要に応じてGTテープ30等挿入してアルミアングルで固定してください。
- 瓦棒ペイントは2回塗りとし、希釈、吹付はおこなわないでください。

瓦棒ペイント(メタリック調)サンプル

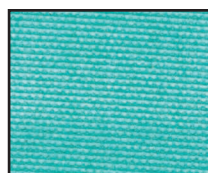
※印刷のため実物と若干色調が異なる場合があります。



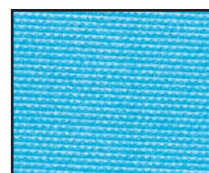
シルバー



グレー



グリーン



ブルー



レッド

比べて分かる! ニッタ瓦棒シート

各種改修方法の比較

項目	鋼板葺替え工法	塗料塗装工法	ニッタ瓦棒シート工法
工法概要	既設の鋼板を撤去し、再度新しい鋼板葺きをし、改修する工法。	既設の鋼板を活かし、劣化の程度に応じてケレンをおこない、塗料塗装をおこなう工法。	既設の鋼板を活かし、劣化の程度に応じてケレンをおこない、防錆処理後、加硫ゴム系シートおよび成型型物併用により防水する工法。
防水性	鋼板の線膨張、風圧、錆などでカシメ部が緩み、漏水の原因となる場合がある。		成型型物が瓦棒のカシメ部を覆うので、防水の信頼性は高い。
防錆性	塗料層が剥落している部分(特にカシメ部)や軒先部で錆びやすい。	塗料の耐久性に左右される。葺替え工法より錆びやすい。	酸素、水分の供給が遮断されるので、錆は発生しない。防錆剤を併用する。
耐薬品性	酸性雨、海水などで発錆しやすい。臨海地区、温泉地区には不適。		耐薬品性にすぐれる。
温度依存性	良好である。特に寒冷地に適している。		低温から高温まで安定している。
遮音性	金属面のため、音の伝搬は大きい。		ゴムシートのクッション効果により、雨音は小さくなる。
遮熱性	熱伝導率が大きいので熱は伝わりやすい。		遮熱塗料の併用で改善できる。
耐久性	鋼板の耐久性はすぐれている。基本的にはカシメ部、塗料の素材の耐久性となる。	塗料の素材により異なる。一般には5年程度で塗り替える。	素材はシート防水材として40年以上の実績がある。
施工性	既設鋼板を撤去するので撤去材の処理、雨養生の必要による居住性の悪影響が考えられる。	鋼板の劣化程度に応じて素地調整が必要。ケレン仕上げ精度が耐久性に大きく影響するので、細心の注意と熟練度を必要とする。	3~4種ケレンで十分に対応できる。
外観	新規に原形に復元するので良好である。	色調面では良好になるが、変形部があるとそのまま改善できない。	瓦棒形状もそのまま復元できる。メタリックカラーの併用で金属様式も維持できる。

製品を安全にお使いいただくために!

施工に際しては標準施工仕様書を必ずお読みください。

●ニッタ瓦棒シート、ニッタシートエキストラTS-Kについて

⚠警告 このカタログに記載されている以外の仕様では使用しないでください。また飲料水、食品と直接触れるような使用はしないでください。

⚠警告 重量物ですので、無理のない姿勢で運搬してください。

⚠注意 保管する場合は、倒れたり、転がらないよう適切な用具やストッパーを用いてください。

●瓦棒シートボンド、瓦棒ボンドK、瓦棒ペイントについて

⚠警告 有機溶剤を含みますので、保管および取扱い場所およびその周辺は、作業中、乾燥中ともに火気厳禁です。また、吸入したり皮膚に触れると中毒や皮膚障害を起こす恐れがあります。

取扱いには下記の注意事項を守ってください。吸入したり皮膚に触れて異常を感じた場合は、直ちに医師の診断をうけてください。

1. 取扱い中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて、有機ガス用防毒マスクまたは送気マスクを付け、さらに頭巾、保護めがね、長袖の作業衣、襟巻きタオル、保護手袋などを着用してください。

2. 容器から出し入れするときは、こぼれないようにしてください。

3. 取扱い後は洗顔、手洗いおよびうがいを充分におこなってください。

4. 作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。

⚠警告 有機溶剤を含む廃材を、河川、湖沼、海などへ廃棄しないでください。また、中身を残したままの廃棄や火中への投棄はしないでください。

⚠注意 直射日光を避け 40℃以下の乾燥した換気のよい場所、および部外者や子供の出入りできない場所に、密閉して保管してください。

⚠注意 引火した時は、粉末、炭酸ガス、泡消火器または水を噴霧して消火してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。

⚠注意 指定した以外の材料と混合しないでください。

●施工について

⚠警告 墜落防止のため、工事現場周辺には安全柵を設けてください。

施工中、および施工後の維持管理上のお願い!

防水層を傷つけたり防水機能を損なわないために、以下の事項を守ってください。

- ・たき火、花火、喫煙などの火気の使用は厳禁です。
- ・油、有機溶剤、薬品などを付着させないでください。
- ・動物の飼育をしないでください。
- ・防水材のうえを歩行する場合は、靴底の柔らかい履き物を使用してください。
- ・避雷針、テレビアンテナ、空調設備、物干し台などを設置する場合は、ゴムマットなどの下敷材を施してください。
- ・設計時に予定した以上の重量物は設置しないでください。
- ・作業する場合は刃物で傷をつけたり、尖った物、重量のある物で衝撃を与えないでください。

ニッタ化工品株式会社

<https://www.nitta-ci.co.jp>

本 社	〒556-0022 大阪市浪速区桜川4-4-26	TEL 06-6563-1206
東京支社	〒162-0808 東京都新宿区天神町10番地 安村ビル	TEL 03-3235-1713
札幌支店	〒060-0809 札幌市北区北九条西3丁目19-1 ノルテプラザ6F	TEL 011-747-1040
東北支店	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26 小田急仙台東口ビル6F	TEL 022-292-1855
中部支店	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-17-23 ニッタビル2F	TEL 052-551-5611
広島駐在	〒730-0042 広島市中区国泰寺2丁目2-5	TEL 082-535-3400
四国支店	〒761-8071 香川県高松市伏石町2018-13	TEL 087-869-1595
九州支店	〒812-0007 福岡市博多区東比恵4丁目4-7	TEL 092-411-8303

防水専用ホームページアドレス <https://nitta-roofing.com>

- 本カタログに掲載の内容は予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- カタログと実際の色とは印刷の関係で少し異なる場合があります。
- カタログのイラストは特徴を示したものです。現物とは外観の差異があります。
- カタログの記載事項は一般的な取扱いおよび標準的な場合のものです。特殊な条件下では異なる場合もありますので別途ご相談ください。



弊社は 40 年の実績を誇るシート防水材料の優良メーカーの団体である当工業会の加盟会社です

合成高分子ルーフィング工業会
<http://www.krkroof.net>